

# ART MARKET TENNOZ AREA MAP

## TAKUMI BORDERLESS

日本全国には、伝統の技巧を受け継ぎ、さらに進化させ続けているさまざまなものづくりの匠がいます。今回の展覧会は己の研鑽したWAZAを駆使した「アート視点」と「プロダクト視点」の双方を同じ匠が展示することで、その領域をボーダレスに行き来する匠の作品を発信していく。



## 水辺のインスタレーション

アーティスト高橋匡太によるインスタレーション「ひかりの実」は、参加者が果実袋に「笑顔」を描き、中にLEDの小さな光を入れて膨らませて作る光の作品です。オンラインワークショップサイト「スマイルアリエ」上で「笑顔」の絵を集めて、ボードウォーク上の木々に取り付けます。



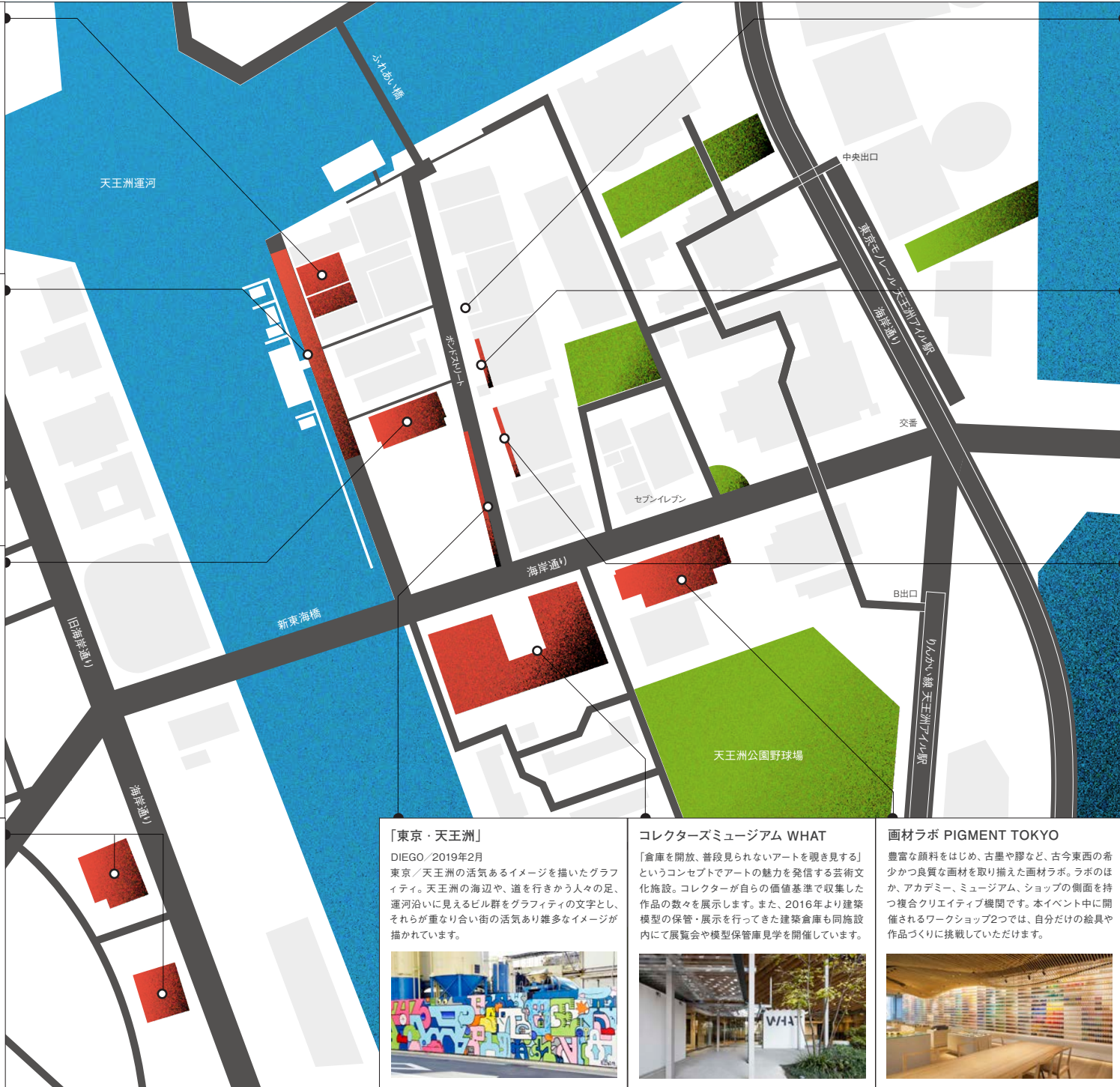
## WHAT CAFE SPECIAL MARKET

未来を担うアーティスト約30名によるアートマーケットを開催します。アーティストと直接話しながら作品を発掘できるほか、CAFEスペースではフード・ドリンク・アルコールを楽しめます。また、マーケット会場で行われるイベントでは、ライブパフォーマンスでしか感じることができないアーティストの熱気を感じることができます。



## TERRADA ART COMPLEX I & II

天王洲を芸術文化の発信地とするべく、アート事業に関連したコンテンツを集積した複合施設。日本を代表するアートギャラリーが多数集積しており、2020年にはTAC IIがオープンし、ギャラリー・コンプレックスとしては国内最大級となりました。二棟の間にはガーデンエリアが広がります。



## 「猫も杓子も」

Damien Poulain / 2018年  
T号倉庫前に堂々と佇む巨大スカルプチャー。「猫も杓子も」というタイトルには、誰もがスマホというカメラを一人一台持ち歩いているこの現代に、本来、人間の被写体であるはずの猫が反対に人を撮影するというユーモアと皮肉が込められています。



## 「Looking for Words」

Lucas Dupuy / 2019年3月  
文字を文字として認識できないと、この世界はどのように見えるのか。もし文字が読めず、文字として認識できないのなら、文字の形は建物に見え、そして地図にもなり得る。この壁画が様々な想像力を膨らませるきっかけとなる。



## 「The Shamisen」 Shinagawa 2019

ARYZ / 2019年3月  
幼い頃から日本に憧れていたというアーティストARYZ氏による作品。鈴木春信の浮世絵「見立芥川」という、川辺で三味線を弾いている二人の女性の画を題材にして描かれた巨大な壁画は、天王洲に新しく浮世絵の風景をつくりだしている。



## 「東京・天王洲」

DIEGO / 2019年2月  
東京／天王洲の活気あるイメージを描いたグラフィティ。天王洲の海辺や、道を行きかう人々の足、運河沿いに見えるビル群をグラフィティの文字とし、それらが重なり合い街の活気あり雑多なイメージが描かれています。



## コレクターズミュージアム WHAT

「倉庫を開放、普段見られないアートを覗き見る」というコンセプトでアートの魅力を発信する芸術文化施設。コレクターが自らの価値基準で収集した作品の数々を展示します。また、2016年より建築模型の保管・展示を行ってきた建築倉庫も同施設内にて展覧会や模型保管庫見学を開催しています。



## 画材ラボ PIGMENT TOKYO

豊富な顔料をはじめ、古墨や膠など、古今東西の希少かつ良質な画材を取り揃えた画材ラボ。ラボのほか、アカデミー、ミュージアム、ショップの側面を持つ複合クリエイティブ機関です。本イベント中に開催されるワークショップ2つでは、自分だけの絵具や作品づくりに挑戦していただけます。



## PIGMENT ワークショップ

「水彩絵具づくり」  
西洋の古典的な製法にない、大理石版と練り棒を使用したハンドメイドに挑戦していただけます。色鮮やかな顔料を組み合わせ、世界に一つだけの絵具を制作してみませんか？

「岩絵具で描く花」  
鉱石を砕いて作られたきらきらと輝く「岩絵具」という顔料と一緒に使ってみませんか？ 岩絵具についての基礎知識、膠と岩絵具を練り合わせた絵具としての使い方をレクチャーいたします。  
料金：5,000円  
時間：両日 11:30～15:00～  
ワークショップのご予約は pigment.tokyo/workshop